

令和8年7月22日(水)、第2回学校運営協議会を開催しました。はじめに地域連携、評価検証、魅力化発信、生徒育成の各チームで分科会を行い、今年度の学校運営協議会における課題や活動内容について協議しました。各チームでは、それぞれのテーマに基づき、学校と地域が連携して取り組むべき方向性や具体的な活動について活発な意見交換が行われました。その後、全体会を行い、各分科会で出された意見や提案について共有を行い、委員全員で協議しました。各チームの協議内容を共有することで、相互に関わり合いながら学校づくりを支えていることを再確認することができました。また、今後の学校運営協議会の活動予定について確認し、引き続き学校・家庭・地域が連携しながら「地域とともにある学校づくり」を推進していくことを共有しました。



【各分科会の協議内容】

【地域連携】

地域連携チームでは、「高校生の探究活動の場を地域でどのように支えていくか」をテーマに協議を行いました。委員からは、高校生と地域住民が顔の見える関係を築くため、まずは地域との交流機会を増やすことが重要であるとの意見が出され、小学校との交流や地域との連携は、探究活動を支えるだけでなく、生徒が地域を知り、地域への愛着を育む機会にもなることが共有されました。一方で、地域との交流機会は回数も限られることもあり、まだ十分ではないことが課題として挙げられ、小さな取組であっても継続して実施することが重要であるという確認がなされました。今後は、地域連携を単発の活動で終わらせず、継続的な取組として定着させていく必要があること、また、地域の役員や学校の教職員が毎年交代する実情を踏まえ、1年単位ではなく3～5年程度の見通しをもった中長期的な計画づくりが求められるとの意見も出されました。



【評価検証】



評価検証チームでは、学校評価アンケートの設問内容や学校からの情報発信の効果について協議しました。委員からは、「アンケート結果だけで判断するのではなく、その背景にある生徒や保護者の思いを丁寧に読み取ることが大切」との意見が出されました。また、「学校が様々な取組を行っていても、保護者や地域に十分伝わっていない場合がある」「何をどのように発信すれば届くのかを検証する必要がある」との声もありました。「回答しやすく、学校の実態がより正確に把握できる設問内容を検討していくべき」との提案もありました。今後は、アンケートの内容や情報発信の方法を見直しながら、学校の教育活動を適切に評価し、改善につなげる仕組みづくりを進めていくことを確認しました。

【魅力化発信】

魅力化発信チームでは、「学科再編に向けた学科の特色や教育内容、効果的な情報発信」について協議しました。委員からは、「学科名やコース名は、中学生が見たときに何を学ぶ学校なのかが分かることが大切」という意見が出されました。また、「今の高校生が地域や企業、大学とのつながりながら学んでいることをもっと外に伝えるべき」「笛吹高校の探究活動は専門家の講師も多く来て下さる。専門家から直接学べることは大きな魅力になる」との声もありました。あわせて、笛吹高校がこれまで培ってきた農業やスポーツ、英語教育などの特色は、本校の強みであることが改めて再認識されました。今後は、学科再編を契機として学校が新たな教育活動に取り組んでいることを積極的に発信し、中学生や保護者に本校の魅力を伝えていく必要性についても共有されました。



【生徒育成】

生徒育成チームでは、生徒の心の育成と人間関係づくりについて協議しました。学校からは、「SNS をきっかけとした人間関係のトラブルや相談が増え、教員やスクールカウンセラーによる支援が欠かせない状況にある」との報告がありました。委員からは、「子どもたちはトラブル後の関係修復が苦手になっている」「相手を責めるのではなく、対話によって関係を立て直す力が必要」との意見が出されました。また、自己肯定感は、誰かに認められる経験の積み重ねによって育まれることから「地域活動やボランティアを通して認められる機会を増やしてはどうか」との提案もありました。今後は、ストレスへの対処法やコミュニケーション力を育む活動を充実させるとともに、生徒が互いを認め合い、自分らしく成長できる学校づくりを進めていくことを確認しました。



【全体会】

全体会では、各チームでの協議内容を共有し、今後の学校運営の方向性について意見交換を行いました。委員からは、「地域連携や探究活動、生徒育成、学校の魅力発信はそれぞれ独立した取組ではなく、相互に関連しながら学校の魅力につながるものである」との意見が出されました。「地域の方々や企業、大学など多くの協力を得ながら学べる環境は本校の強みであり、生徒自身がその価値を実感できるような取組が大切である」との指摘もありました。さらに、生徒の自己肯定感を育むためには、地域活動やボランティア活動などを通して「認められる経験」を積み重ねることが大切であることや、人間関係のトラブルを対話によって修復する力を育成する必要性についても意見が交わされました。

校長からは、探究活動や地域との交流活動を通して、生徒が主体的に行動するようになった事例が紹介され、様々な経験が生徒の成長や意識の変容を促す重要な機会となることが示されました。また、本校がこれまで築いてきた地域とのつながりや人的ネットワークを生かしながら、生徒一人ひとりが自ら考え行動し、地域社会に貢献できる資質・能力を育成していくことを参加者全体で共有しました。

「CS って何？」

CS(コミュニティ・スクール)とは、学校と地域が協力して子どもたちを育てる仕組みです。保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校づくりに意見を生かします。学校・家庭・地域が連携して、よりよい教育環境をつくることを目指しています。

今後の CS 会議の予定

- | | |
|-----|-----------------|
| 第3回 | 令和8年 10月6日 (火) |
| 第4回 | 令和8年 12月21日 (月) |
| 第5回 | 令和9年 2月18日 (木) |